

①上位の政策名	政策目標5 優れた成果を創出する研究開発環境を構築するシステム改革	
②施策名	施策目標5-2 創造的な研究開発システムの構築	
③主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 科学技術・学術政策局調査調整課(課長:有松育子) 科学技術・学術政策局計画官(計画官:生川浩史) (関係課) 基盤政策課(課長:田中正朗)/研究振興局学術研究助成課(課長:杉野剛)/ 基礎基盤研究課(課長:大竹暁)/研究環境・産業連携課(課長:佐野太)/ ライフサイエンス課(課長:松尾泰樹)/情報課(課長:勝野頼彦)/ 研究開発局海洋地球課(課長:佐藤洋)/原子力研究開発課(課長:中村雅人)/ 高等教育局大学振興課(課長:中岡司)	
④基本目標及び達成目標 ア=想定した以上に達成 イ=想定どおり達成 ウ=一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった エ=想定どおりには達成できなかった ア=想定した以上に順調に進捗 イ=概ね順調に進捗 ウ=進捗にやや遅れが見られる エ=想定したどおりには進捗していない	<p>基本目標5-2 (基準年度:13年度 達成年度:17年度) 競争的資金の改革及び充実等により競争的な研究開発環境を整備するとともに、所要の研究開発資源の中でより優れた成果を上げるといふ観点から研究開発評価システムの改革を進め、創造的な研究開発システムを構築する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア=達成目標5-2-1~5-2-4まで項目の達成度合い又は進捗状況において、半数以上が「ア」かつ他の項目が「イ」 イ=達成目標5-2-1~5-2-4まで項目の達成度合い又は進捗状況において、全て「イ」以上 ウ=達成目標5-2-1~5-2-4まで項目の達成度合い又は進捗状況において、全て「ウ」以上 エ=達成目標5-2-1~5-2-4まで項目の達成度合い又は進捗状況において、「エ」がある</p> <p>達成目標5-2-1 (基準年度:13年度 達成年度:17年度) 総合科学技術会議等の方針を踏まえ、文部科学省における競争的資金の拡充を図る。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 文部科学省の一般歳出予算が対前年度比で減額となる厳しい財政状況のもと、 ア=競争的資金が第2期科学技術基本計画中において2倍以上増加 イ=競争的資金が第2期科学技術基本計画中において2倍増加 ウ=競争的資金が第2期科学技術基本計画中において増加 エ=競争的資金が第2期科学技術基本計画中において変化なし又は減少</p> <p>達成目標5-2-2 (基準年度:13年度 達成年度:17年度) 総合科学技術会議等の方針を踏まえながら、競争的資金において公正で透明性の高い評価の確立を図るとともに、評価に必要な体制を整える。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア=第2期科学技術基本計画、総合科学技術会議等の指摘事項(PO、PDによる一元的管理・評価体制の整備等)への対応が想定した以上に達成 イ=第2期科学技術基本計画、総合科学技術会議等の指摘事項(PO、PDによる一元的管理・評価体制の整備等)への対応が想定どおり達成 ウ=第2期科学技術基本計画、総合科学技術会議等の指摘事項(PO、PDによる一元的管理・評価体制の整備等)への対応について一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった エ=第2期科学技術基本計画、総合科学技術会議等の指摘事項(PO、PDによる一元的管理・評価体制の整備等)への対応が想定どおりには達成できなかった</p> <p>達成目標5-2-3 (基準年度:13年度 達成年度:17年度) 競争的資金における間接経費を拡充する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア=間接経費が期間全体を通じて、前年度と比較して大幅に増加 イ=間接経費が期間全体を通じて、前年度と比較して増加 ウ=間接経費が期間全体を通じて、前年度と比較して変化なし エ=間接経費が期間全体を通じて、前年度と比較して減少</p> <p>達成目標5-2-4 (基準年度:13年度 達成年度:17年度) 創造へ挑戦する研究者を励まし、優れた研究開発を見出し、伸ばし、育てるための研究開発評価を効果的・効率的に実施するための評価シ</p>	<p>達成度合い又は進捗状況</p> <p>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</p> <p>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</p> <p>想定どおり達成</p> <p>想定どおり達成</p> <p>想定どおり達成</p>

	<p>テムを整備する。</p> <p>【達成度合い（進捗状況）の判断基準】 ア＝評価システム整備が前年度と比較して大幅に進んだ。 ①支援策が拡充され、支援策の満足度が90%以上、かつ、 ②全ての実績指標が前年度比10%以上増となった場合 イ＝評価システム整備が前年度と比較して進んだ。 ①支援策が拡充され、支援策の満足度が70%以上、かつ、 ②複数の実績指標が前年度比10%以上増となった場合 ウ＝評価システム整備が前年度と比較して同程度に留まった。 ①支援策が実施され、支援策の満足度が60%以上、または ②複数の実績指標が前年度比と同程度であった場合 エ＝評価システム整備が前年度と比較して後退した。 ア、イ、ウのいずれにも該当しない場合</p> <p>※評価システム整備の判断項目 平成17年度は、以下を総合して「イ」と判断 ①においては、・文部科学省評価指針を改定し、広く周知 ・研究開発評価シンポジウムを新規に実施 ・支援策の満足度79% ②においては、・全ての実績指標が前年度比10%以上増</p>	
<p>⑤ 現状の分析と今後の課題</p>	<p>各達成目標の達成度合い又は進捗状況（達成年度が到来した達成目標については総括）</p> <p>達成目標5-2-1 【平成17年度の達成度合い】 平成17年度においては、文部科学省の一般歳出予算が対前年度比で減額となる厳しい財政状況のもと、対前年度比784億円、28%増となる3,609億円を措置したことから、概ね順調に進捗と判断。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 達成目標「総合科学技術会議等の方針を踏まえ、文部科学省における競争的資金の拡充を図る。」については、達成目標期間全体を通して、厳しい財政状況の中、その指標である競争的資金予算額が期間の前半から概ね順調に拡充したものの、第2期科学技術基本計画中の倍増が達成できなかった（平成12年度比1.5倍）ことから、一定の成果が上っているが、一部については想定どおり達成できなかったと判断。</p> <p>達成目標5-2-2 【平成17年度の達成度合い】 従来より事前、中間、事後評価を適切に実施し、中間評価の結果を踏まえた研究計画の変更、縮小、中止など適正な処理に努めている。平成17年度は「競争的研究資金制度改革について（意見）」（平成15年4月21日）を踏まえ、各制度において第2期科学技術基本計画、総合科学技術会議等の指摘事項（PO、PDによる一元的管理・評価体制の整備、本省の配分機能の独立した配分機関への移行等）への対応が進捗していることから、概ね順調に進捗と判断。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 達成目標「総合科学技術会議等の方針を踏まえながら、競争的資金において公正で透明性の高い評価の確立を図るとともに、評価に必要な体制を整える。」については、達成目標期間全体を通して、PO・PDの配置・拡充などの取り組みにより、公正で透明性の高い評価に必要な体制を整えていることから、全体として想定どおり達成したと判断。</p> <p>達成目標5-2-3 【平成17年度の達成度合い】 間接経費措置額が増加しており、措置対象プログラムも増加していることから、概ね順調に進捗と判断。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 達成目標「競争的資金における間接経費を拡充する。」については、達成目標期間全体を通して、指標となる間接経費額が前年度と比較して増加しており、全体として想定どおり達成したと判断。</p> <p>達成目標5-2-4 【平成17年度の達成度合い】 達成目標「研究開発評価を効果的・効率的に実施するための評価システム整備」の平成17年度の達成度合いについては、研究開発評価研修や研究開発評価の実態調査等継続的に活動が推進できており、また、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」を改定し、周知を図るとともに、新たに、研究開発評価シンポジウムや研究開発評価ワークショップを実施している。さらに、研究開発評価研修・シンポジウムへの参加者の満足度が79%に達しており、想定どおりに達成と判断。</p> <p>【達成目標期間全体の総括】 達成目標「研究開発評価を効果的・効率的に実施するための評価システム整備」については、大学や研究開発機関等における評価システム構築上の課題について実態調査を行ったところ、大学では評価システム構築の過渡期にあり、効果的・効率的な評価システム構築の支援策として、評価手法及び実例を中心とした研修等を開催するとともに、実態調査結果を刊行・ホームページで公表した。研修等参加者の満足度が高い水準を示しており、また、ホームページへのアクセス件数が増加していることから、全体として想定どおりに達成された。</p> <p>【基本目標期間全体の総括】 創造的な研究開発システムについては、関連する達成目標の大半は想定どおり達成している</p>	<p>施策目標（基本目標）の達</p>

成度合い又は進捗状況	ものの、5-2-1について想定どおり達成できなかったことから、基本目標全体としては一定の成果が上っているが、一部については想定どおり達成できなかったと判断。
今後の課題 (達成目標等の追加・修正及びその理由を含む)	<p>達成目標5-2-1～5-2-3 競争的な研究開発システムについては、競争的資金の拡充、透明性の高い評価の実施、間接経費の拡充という科学技術基本計画及び「競争的研究資金制度改革について(意見)」の方針を踏まえ、引き続き改革と拡充に取り組む。</p> <p>達成目標5-2-4 研究開発評価に関する研修等の開催は、参加者の満足度が79%に達していることから、目標の達成に一定の効果を発揮しているものと推測されるが、今後は、マネジメントに関する研修の開催等、参加者のニーズに応じたよりきめ細やかな支援を実施するため、研修等の内容を一層充実させるほか、効果的・効率的な評価システム構築に寄与する評価手法等の研究を行う高度な評価人材の育成が必要である。 また、評価事例集の作成及び公表により、大学や研究開発機関の評価活動を広く紹介し、他大学等の参考に供しているが、今後も、評価の実態調査を着実に推進していくことが、大学等間の情報の共有化の観点からも重要である。 さらに、研究開発の発展段階や特性に応じた評価方法(手法、指標等)の開発・明確化を早急に着手する必要がある。</p>
評価結果の18年度以降の政策への反映方針	<p>達成目標5-2-1～5-2-3 競争的研究環境の形成に貢献する競争的資金については、総合科学技術会議における競争的資金制度改革の指摘も踏まえてさらなる改革に努めながら、その拡充を図る。</p> <p>達成目標5-2-4 研修等をより効果的にするため、その開催に際して研修等内容を精査・熟考し、評価の基礎から、より実践的な評価手法まで、参加者の幅広いニーズに対応できる研修等を開催する。 第3期科学技術基本計画では、評価人材(評価に精通した個別分野の専門家、府省や機関等の職員、評価を専門分野とする研究者等)の養成・確保が極めて重要な課題とされていることも踏まえ、高度な評価人材の育成等により一層の達成水準の向上を図るため、体系的・組織的により多くの人が評価を含む研究開発マネジメントを身に付けることができる環境整備を行うための事業を新たに実施する。</p>

⑥指標	指標名	13	14	15	16	17
	競争的資金予算額(文部科学省)(百万円) (達成目標5-2-1関係)	255,897	265,589	271,386	282,453	360,865
	間接経費(文部科学省)(百万円) (達成目標5-2-3関係)	8,891	15,581	19,354	21,508	30,329
	文部科学省が実施する国内外の有識者による研究開発評価研修等への参加者数 (達成目標5-2-4関係) [単位:人]		33	342	334	700
	研究開発評価研修及び研究開発評価シンポジウム参加者の満足度 (達成目標5-2-4関係) [単位:%]					79.3
	評価活動の実態を把握するために行ったヒアリングの機関数 (達成目標5-2-4関係) [単位:機関数]		5	7	13	15
	ホームページに公開した事例集へのアクセス件数(総件数) (達成目標5-2-4関係) [単位:件数]				2,130	7,949

⑦評価に用いたデータ・資料・外部評価等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 競争的資金予算額(文部科学省)については、文部科学省調べ。 間接経費(文部科学省)については、文部科学省調べ。 指標5-2-4の満足度のデータについては、研修等参加者に対するアンケートの結果を活用。その他のデータについては、活動の結果等を単純集計。
------------------------	--

⑧主な政策手段 (過去に新規・拡充事業評価を実施し、平成18年度に達成年度が到来する事業については総括)	政策手段の名称 (上位達成目標 [17年度予算額])	政策手段の概要	17年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)
	競争的資金制度の拡充 (達成目標5-2-1)	競争的資金制度において第2期科学技術基本計画中の倍増目標を踏まえ拡充。	<p>各制度において、競争的資金制度の拡充に努めた結果、競争的資金制度全体の拡充が見られた。</p> <p>【期間全体の総括】 第2期科学技術基本計画中の倍増目標には到達しなかったものの、平成12年度比1.5倍の拡充が見られた。</p>

<p>プログラムオフィサー、プログラムディレクターの配置・拡充 (達成目標 5-2-2)</p>	<p>文部科学省・独立行政法人日本学術振興会・独立行政法人科学技術振興機構において、公正で透明性の高い評価に必要な体制を整えるため、プログラムオフィサー、プログラムディレクターを配置・拡充。</p>	<p>各制度において、プログラムオフィサー、プログラムディレクターの配置・拡充に努めた結果、構成で透明性の高い評価に必要な体制の整備が進んだ。</p> <p>【期間全体の総括】 期間全体を通して前年度よりプログラムオフィサー、プログラムディレクターの配置・拡充をしており、一元的管理・評価体制の整備が進んだ。</p>
<p>間接経費の拡充 (達成目標 5-2-3)</p>	<p>間接経費を措置するプログラムの範囲を拡大しつつ拡充。</p>	<p>各制度において、間接経費の更なる措置に努めた結果、競争的資金制度全体の間接経費の拡充が見られた。</p> <p>【期間全体の総括】 期間全体を通して前年度より増加しており、平成13年度比3.4倍の拡充が見られた。</p>
<p>研究開発評価の実態調査 (達成目標 5-2-4) [1,402千円]</p>	<p>「文部科学省の研究及び開発に関する評価指針」の啓蒙・普及活動及び研究開発評価システムの構築の支援を行う上で、大学等の最新状況の把握及び課題の抽出のために大学等に対しヒアリング調査を実施。</p>	<p>【得られた効果】 ①評価の優れた実例を調査・収集し、結果を研修等に反映させることで、研修等の内容が、より効果的なものとなった。 ②実例集として刊行・ホームページでの公表により、大学等間で情報の共有化が図られ、大学等の評価システムの構築に寄与することができた。</p> <p>【事務事業等による活動量】 ・16年度(第2次調査分)の調査結果を実例集として取りまとめて刊行した。(7大学収録) ・13大学、2独立行政法人に対し実態調査を実施するとともに、各機関の評価運営者や評価者等と意見交換を実施した。 ・各大学の特徴ある評価システムについて取りまとめ作業を行った。</p> <p>【期間全体の総括】 調査数の増加と調査結果の公表に伴い、研修等の内容の充実や情報共有化が進んだことから、本事業の目的は達成されるものと判断。</p>
<p>研究開発評価に関する研修等の実施 (達成目標 5-2-4) [18,229千円]</p>	<p>文部科学省、他省庁、研究開発機関及び大学等の職員や研究者を対象に、国内外の有識者による研究開発評価に関する研修や評価システムの構築に有益な情報を共有するための研究開発評価シンポジウム等を実施。</p>	<p>【得られた効果】 研修等を通して、参加者が研究開発評価に関する新たな知見を取得するとともに、参加者間のネットワーク構築の一翼を担い、各機関の評価システムの構築に寄与することができた。</p> <p>【事務事業等による活動量】 ・研究開発評価研修を計5回実施し、延べ342人が受講した。(内1回は、英国の有識者を招へいし実施した。) ・研究開発評価ワークショップを諸外国の有識者を交え実施し、国内外から108人が参加した。 ・研究開発評価シンポジウムを実施し、250人が参加した</p> <p>【期間全体の総括】 参加者数の増加や参加者の満足度の高さから、本事業の目的は達成されるものと判断。</p>
<p>⑨備考</p>		
<p>⑩政策評価担当部局の所見</p>	<p>※次年度においては、達成目標5-2-2、3について達成度合いの判断基準を定量化等により明確にすることを検討すべき。 ※公的研究費の適切な使用の徹底に関する目標及び指標を設定することを検討すべき。</p>	

施策目標5-2(優れた成果を創出する研究開発環境を構築するシステム改革) 平成17年度実績評価結果の概要

